

NEWS LETTER



開催概要

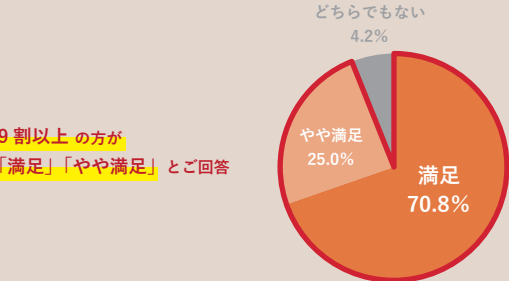
- ・日 時：2023年12月19日（火）
第1部 09:30～12:00
第2部 19:00～21:30
- ・場 所：第1部 池田市中央公民館2階会議室A・B
第2部 池田市役所7階大会議室
- ・参加人数：第1部 13人
第2部 14人

プログラム

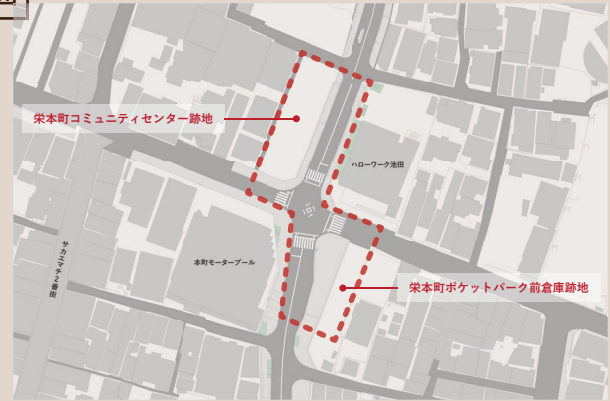
1. 開会の挨拶
2. 駅周辺整備計画の紹介・ワークショップの進め方
3. ディスカッション
 - ① グループ内で自己紹介！
 - ② 理想的なシーンを考えよう！
 - ③ ②で考えたシーンを実現するために、オープンスペースに必要な機能や配置を考えよう！
4. 各チームの成果発表
5. 総括コメント
6. 今後の予定・アンケート記入
7. 閉会の挨拶

アンケート結果

■ ワークショップの満足度



検討範囲



■ 栄本町コミュニティセンター跡地にあったらよい機能

必要 どちらかといえば必要 どちらでもよい どちらかといえば不要 不要

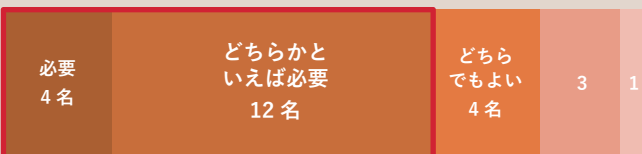
① 市民活動拠点（計24名）



③ 飲食・休憩施設（計24名）



② 観光案内所（計24名）



① 市民活動拠点 (21/24名) と ② 飲食・休憩施設の (23/24名) のニーズが高い結果となった

みなさまからいただいたご意見をもとに、検討を進めます。
引き続き、どうぞよろしくお願いいたします！

お問い合わせ先

メール sakaehonmachi.workshop@gmail.com | (株)日建設計
電話 072-754-6262 | 池田市 まちづくり環境部 都市政策課 (平日 8:45 ~ 17:15)

ワークショップの結果（各グループの議論の内容）



■ 1-Aグループ
 ・スタンディングバーができたり、夜に若い子がガラス張りの壁面の前でダンスをしたり、そういった異なる用途を想定したコンテナハウスを建てると面白いのではないかと。
 ・たまにキッチンカーがきて、マルシェができて、モビリティやタウンインフォメーションのような情報収集できる場所があるとよい。
 ・トイレもほしいという意見が出た。
 ・倉庫跡地は人工的な雰囲気として、それに対してコミセン跡地は自然的で、五月山をイメージした丘を作って、人工芝と天然芝を織り交ぜながら、緑豊かな環境を整えるのがよい。
 ・シンボルツリーを作って、春夏秋冬楽しめるようにしたい。例えば、冬であればイルミネーションを付けて、明るいイメージを作りたい。
 ・平日は近所の保育園児さん、休日はインバウンドの方や観光客の憩いの場となるとよい。



■ 1-Bグループ
 ・コミセン跡地はフラットにして、キッチンカーやマルシェ、産直市場ができるようにしたい。
 ・平日は、子どもが走り回って遊べるような空間として、水遊び場がほしいという意見もあった。
 ・町会での会議室や防災備品の倉庫、公衆トイレが必要である。
 ・平日は地域住民の利用をメインとして、土日祝日は来街者が多く、イベントを開催して、五月山へ上がる中間地点、休憩地点として使えるような場所になるとよい。
 ・ガラス張りの壁面でダンスが練習できる場所がほしい。
 ・周辺で犬の散歩がされている方が多いので、そういった方たちが立ち寄ってリードを繋いでおける場所があるとよい。
 ・池田市が織物の町だというストーリー性をもっと対外的にアピールして、歴史がわかる場所になるとよい。
 ・人が集まりやすく、ここを目的として来てもらえるような場所になるとよい。



■ 1-Cグループ
 ・平日は市民利用がメインで、休日はなるべく来街者を誘致したい。
 ・簡単にお茶が飲め、テイクアウトした物を食べられ、気軽に立ち寄れる場所を設ける。お茶を飲みながら喋れる場所が必要である。
 ・休日はキッチンカーがきて、お土産を売るなど、池田市の特徴をアピールできるものを設置するのがよい。
 ・トイレが必要である。
 ・コミセン跡地でスケボーができる簡単な施設があるとよい。例えば、子どもがダンボールを敷いて滑る遊びができる施設と兼用するのはどうか。
 ・芝生に自由に座ったり、小さい子どもがハイハイしたり、そういったことができる広場があるとよい。
 ・広場では、食事やチャレンジショップがあつて、人が寄り集まって話ができる場所が必要である。
 ・交差点でもあるので、その整理をどうしていくのかというのもひとつのポイントである。



■ 2-Aグループ
 ・働いている人も集まれるナイトバーがあるとよい。
 ・朝は散歩中の人や子ども、送り迎えの人、高齢者など、世代を超えて集まれるとよい。定期的にみんなで参加できる朝市のようなイベントが開催できるとよい。昼と夜は、「匠が教える工房」のような、体験ワークができるとよい。
 ・地域で大事にしている物（倉庫に保管している船など）を見せられるとよい。
 ・屋根さえあれば、定期的に集まれる安心感がある場所になる。そうすると、イベントだけではなく、普段から散歩中の人や来街者のサイクリングの集合場所になったりする。ここに行けば誰かに会えるような、集まりやすい場所になるとよい。
 ・トイレや倉庫、水遊び場は、倉庫跡地のほうに設置できるとよい。



■ 2-Bグループ
 ・コミセンの跡地のほうは、呉服座や五月山公園、逸翁美術館への来訪者が、「立ち寄りとお得だ」と思えるような経由地の性格を持たせてはどうか。例えば、地域の限定品が買えるようなアンテナショップと、案内所の要素がある施設、防災倉庫やトイレを、敷地の3分の1くらいの範囲に建てて、手前はイベントで使えるような広場にするのがよい。
 ・ポケットパークのほうでは、地域の方が利用できる、子どもが遊べるような公園にしてはどうか。親水公園や芝生、ベンチ、照明、日陰を作る物を設置して、普段も休日も人が集まれるような場所になるとよい。
 ・地元向けと来訪者向けで、一体的な利用ができるとよい。



■ 2-Cグループ
 ・朝はカフェ、昼は休憩所、夜はバーなど、そういった利用ができるとうよい。
 ・水遊びができる子どもが集まれる場所があるとよい。
 ・阪急電車の古い車両を設置して、それを目玉として、いろいろと展開していくのはどうか。
 ・人が集まるには目玉が必要である。電車を設置するだけではなく、車内で飲食ができたり、地域の人に使ってもらえたりするとよい。
 ・倉庫跡地のほうは、子ども向けのものがほしい。夏は屋根があるとよい。水遊び場もあるとよい。目的地になるような場所として、地元の人にも日ごろから利用してもらいながら、来街者にも来てもらえるようになるとうよい。